

すこやかキッズ スポーツ塾

児童向け スポーツ体験活動 からだを動かす楽しさ・競い合う楽しさ

主催：すこやかキッズスポーツ塾実行委員会、デサントジャパン株式会社
共催：協力の各市町村

[http://www.descente.co.jp/jp/csr/2017/04/13/activities/
community/DESCENTE%20VOICE%20vol10_v3_0329.pdf](http://www.descente.co.jp/jp/csr/2017/04/13/activities/community/DESCENTE%20VOICE%20vol10_v3_0329.pdf)

「すべての人々に、スポーツを遊ぶ楽しさを」という企業理念のもと、社会の期待に応えた社会貢献活動をグローバルに展開しています。その一環として児童向けのスポーツ体験型プログラム「すこやかキッズスポーツ塾」を開き、現代の児童たちに、スポーツの楽しさを知ってもらい、体を動かす習慣をつけてほしいという思いのもと、元オリンピック選手などを塾長として迎えたレベルの高い指導を行い、全国で活動を行っています。主には大型施設で複数種目同時開催型の「1日スポーツ塾」と自治体の協力で行う「学校訪問」と2つのアプローチで活動しています。前者は地元活性化にもつながるスポーツのお祭りの場を提供し、後者はスポーツが苦手な子どもでも、偏りなくスポーツの楽しさを届けることが狙いです。この活動は、児童とトップアスリートとのスポーツ体験機会の創出という理念から、企業名を過度に露出させない参加費無料のCSRとして活動しており、趣旨にご理解をいただいた文部科学省や開催自治体の後援を受け、毎年開催しています。前身の「こどもすこやかスポーツ塾」を経て、2006年度からの累計で、「1日スポーツ塾」はのべ26都市、約12,600名、「学校訪問」はのべ41都市148校で約22,150名、シンポジウムには1,400名が参加しています。今後は、日本体操協会と連携してさらに活動を広めたり、児童だけではなく教師やご家族に対する講座の開催も検討しており、社会の要求を取り込み、よりよいプログラムづくりに向けて関係先と連携を図り、よい指導者の下での実施を目指します。



電話：03-5979-6098 メール：e-yamakawa@descente.co.jp
担当者：デサントジャパン(株)経営企画部 事業推進課 スポーツ振興担当 山川 悦子

サイクルクラブによる 競輪場を活用した 地方創生プロジェクト

KIDS KEIRIN／自転車レース「弱虫ペダルカップ」等

主催：日本写真判定株式会社

<http://www.shashin-hantei.co.jp/>

サイクルクラブの趣旨は、オリンピックを目指す選手の育成を含めた自転車競技の発展と普及から、地域の方々の健康増進まで広く競輪場を活用して地域振興に役立てることである。今まで競輪選手以外には使用されていなかった競輪場にサイクルクラブを通じて市民に一般開放することで、施設価値を上げ、健康促進に繋がる運動施設としての機能を持たせた。

初心者向けに乗り方の指導、安全教室や自転車を持たない方には自転車貸し出しも行うことから、気軽に参加でき参加者も増え続けている、タンDEM自転車競技の市民への理解を深める「試乗会」も行った。視覚障がい者の方も多く参加し、「50年ぶりに自転車に乗った。風を感じることができてとても気持ちよかった。また参加したい」と大変満足していただいた。イベントではサイクリストを集めてアニメ【弱虫ペダル】とコラボレーションし、「自転車レース」を実施(平成28年度の参加者2,484人)。業界では初の試みとなった、子どもを対象とした「KIDS KEIRIN」を開催(平成28年度の参加者66人)幼稚園生から小学6年生までの子どもたちが、プロ顔負けの白熱したレースを展開。地元市場より食材の提供もあり千葉の特産品バーベキュー大会も大盛況となった。



電話：03-3265-4851

メール：ogiwara@shashin-hantei.co.jp

担当者：荻原 健二

ウェルネス ウォーキング

健康長寿を目指して「お散歩でこの国を元気にする」

主催：日本ウェルネスウォーキング協会

<https://www.wellness-walking.org/>

ウェルネスウォーキングとは、ドイツの健康保養地で治療としても実施されている気候療法などの手法を用いたウォーキングで、心拍数を管理しながらウォーキングをし、心拍数の目安は「160－年齢」の基準で、歩行の速さを調整する歩き方です。2013年から始まった六甲健康保養地研究会が、「KOB E森林植物園ウェルネスウォーキング」を毎月開催しています。2015年5月から2016年4月(9回)までウォーキング前後の血圧を検証した結果、距離及び高度差の影響で降圧効果があることもわかりました。ウェルネスウォーキングの普及や指導者養成及びコースづくりのアドバイスを行うために「日本ウェルネスウォーキング協会」が2016年3月に立ち上がりました。現在では40コースです。コースづくりのポイントは、健康のために歩くことも重要ですが、そこに住んでいる人との暮らしぶりやその町に反映されている地域の歴史を直接体験することも意識しています。人びとの季節の食材や暑さ寒さを防ぐ工夫や受け継がれてきた独特の風習などをじっくりと見聞することが重要です。これからは、開催地域の人々が他の各地へ出かけて交流を図り、交流人口の拡大に繋がりその地域が活性化し、健康寿命延伸に寄与できることを期待しています。また、今年の4月から「もりおかタニタ食堂」と事業も始まりました。さらに、この夏には北海道滝川市でも事業がスタートする予定です。



電話：090-3652-7303

メール：n-nishimura@kobe-yamate.ac.jp

担当者：西村 典芳

SKIM FES 2017

マリンスポーツと環境保全活動の開催による 地域に密着した環境スポーツ教育

主催：一般社団法人日本スキムボード協会

<http://www.jsa-skim.com/>

マリンスポーツの一種「スキムボード」を通して、全国各地で環境スポーツイベントとして 体験会と環境保全活動を開催しています。スキムボードの無料体験会を3年間で、全国5県、のべ10ヶ所開催。開催にあたり県や市、教育委員会等の名義後援を受けて、一般参加者80名・スタッフ30名で実施しています。4歳～65歳まで、1000名以上の方にスキムボードを体験し、楽しんで頂き、開催時には海でのルールやマナーの冊子を配布し、自然や海の素晴らしさを伝えてきました。

スポーツを楽しむだけでなく、秋にはeco活動を実施。開催地によっては毎月開催している地域もあります。環境保全活動は各地に適したテーマを設けて「鳴り砂」や「アカウミガメ」「防災訓練」などの、野生動物や海岸の環境保全活動などを中心に行い、近隣地域住民や企業と協働しながら 毎年開催を続けています。どちらの活動も参加者は近隣の地域住民に参加してもらい、企画・運営、体験会の 指導はスキムボード競技者が行っています。今後も1ヶ所で大きく展開するのではなく、全国各地で地域に密着した環境スポーツ教育を展開していきます。



電話：0463-26-8031

メール：info@jsa-skim.cpm

担当者：牛尾 大亮

ごるふあみふえすた

ゴルフ場!“緑の広場”でピクニック

- ・ゴルフ場を開放し、子供達やその家族にピクニック気分で楽しんでもらう。
- ・ゴルフ場を観光レクリエーションとして活用する。

主催：鹿沼地区ゴルフ場協議会

会長：長谷川 利雄

「ごるふあみふえすた」は鹿沼地区ゴルフ場協議会が平成25年8月から毎年8月に開催するイベントで、4回の開催実績があります。当初、参加者約300名のところ、昨年は約400名と純増しています。ゴルフ場を開放し、子供達やその家族がピクニック気分でゴルフ場に親しむ時間を提供すること、ゴルファー以外の人達に、ゴルフ場とゴルフに興味を持ってもらうことを期待するとともに、ゴルフ場を新たな観光レクリエーション資源として活用することを目的として開催しています。

開催には、鹿沼市、観光物産協会、まちの駅ネットワークかぬまの後援を得ています。また、鹿沼市内の全小学校へのリーフレット配布や、市広報での周知、交流都市（足立区、墨田区、台東区、春日部市）での周知やWEB掲載等での告知を行い、集客に努めています。今は、鹿沼市周辺住民の参加が主となっており、リピーターの参加者も増えてきています。子供達へのゴルフレッスン、ゴルフカートでのゴルフ場巡り、水遊び、芝ソリ、熱気球、ゴルフ場内の資源を利用したの工作、バトントワリングなど子供達が楽しめる内容が多く、母親からの評価も高く、三世代での参加も多い。今後は、観光レクリエーションとして魅力を高め、首都圏からの参加者を増やすようにしていきたい。



電話：0289-71-1031 メール：okada@kanuma-g.com

担当者：岡田 行人

第7回東尋坊愛の マラニック大会

音楽とマラソン、そして人とのふれ合い

主催：東尋坊愛のマラニック実行委員会、東尋坊観光協会

『東尋坊愛のマラニック』で検索

2012年から始まり6回目となる今年の大会では英語サイトを設立し、初めて海外からのランナーを獲得しました。大会前日には観光ツアーを企画し、ランナーの家族も呼び込める取組により、経済効果は800万円を想定しています。アジア諸国からのアクセスがよく、今後は外国語ボランティア育成や相互交流を増やすことで更なる外国人ランナーの増加に努めます。また、福井県では最長のマラソンのため、依然として国内のランナーからの注目度も高い。地元では、区長や婦人会、まちづくり協議会等を中心として大会をサポートしています。

エイドでは、地元の食材を使った郷土料理でのおもてなしや、音楽応援隊も編成し、まちをあげての応援体制を整えております。地元に残る東尋坊と綾姫の恋物語にちなんでメダルをハート型にしたり、スタートとゴールで愛を叫んだり、背中のゼッケンにコメントを書いてもらい、ランナー同志が励まし合うなど、ユニークな取り組みで愛に溢れた大会運営を心掛けています。今後は「走ってよし・食べてよし・聴いてよし」を目指して、国内外のランナーにアピールしていきます。



走る旅は 記憶に残り 心に宿す
貴方も マラニックという名の 旅に出よう

電話：090-8267-1158 メール：kf.nishide@gmail.com

担当者：事務局長 西出 憲榮

安芸太田 スポーツサーキット

春・夏・秋・冬のスポーツイベントを
シリーズ化して観光振興につなげる

主催：安芸太田スポーツサーキット実行委員会

<https://ryukiaqua.wixsite.com/nukuidam>

<http://www.shiwai-m.com/>

<http://osorakan-trail.com/>

平成21年、地元有志らで発案した「安芸太田ウルトラマラソン試走会」を、町外から16名のランナーが参加して開催。翌年には「第1回安芸太田しわいマラソン」を開催し、全国から219名が参加しました。第6回大会では611名が参加し、「全国ランニング100選」(ランナース社)では5年連続受賞するまでの人気大会に成長しました。しわいマラソンファンも多数いて、専用サイトでの交流も続いています。平成26年に「健康のまち」宣言を行った安芸太田町のイメージに合うビッグイベントとなったことは、有志らの誇りであり、今後も住民主導で開催していくことが地域の力となると信じて活動を続けています。また、昨年は県内最高峰の恐羅漢山周辺を走る「ひろしま恐羅漢トレイルin安芸太田」も開催された。さらに今年は、温井ダム周辺を泳いで走る「龍姫湖アクアスロン」大会や、雪国ならではのイベントも計画されています。小さな町で春・夏・秋・冬のスポーツによる安芸太田町ならではの四季の物語を作ろうとしています。このように季節感あふれるイベントを開催できるのは安芸太田町のブランド力であり、全国に発信できるものと考えます。平成31年度からはこれらをシリーズ化することで、流入人口を増やし、地域も経済も一層潤い町が元気になることも期待できます。既存の観光地や各種体験とも連携して観光客誘致こそ、新しい観光事業としての「スポーツツーリズム」と成り得ます。現在、行政や関係機関とこのスポーツツーリズムを活用していく民間組織立ち上げを協議しています。



電話：090-4801-0481

メール：s.kimura5165@gmail.com

担当者：木村 真一郎

動物の動きを使った 運動プログラム 「ジャングルフィット」

関節を軸にカラダを多様に動かし、
コントロールできるカラダを作る。

主催：ジャングルフィット

<http://www.japan.junglefit.jp/>

ジャングルフィットは、身体の部分 部分の強化ではなく、人間が必要とする動きを重視したプログラムです。子供でも楽しめる動物の動きを使い、コントロールできるカラダを作ります。2012年に世界で有名なライアン・ハーストにより開発されました。トレーニングでは動物の動きとA～Zまである動物ポーズを使います。このプログラムの本当の目的は「自分のカラダのコントロール」にあります。どんなにカラダを鍛えても使えなければ意味がありません。また開発者のライアン・ハーストは関節に関してもプロフェッショナルで「関節」「筋力」「柔軟」3つのバランスを考えたプログラムでもあります。関節はカラダを支える「土台」部分になり、強い関節を作ることにより、動ける身体・本当に綺麗なカラダになっていきます。

現在、これからの将来を担う子ども達をメインに大阪の豊中市で活動をしております。また、養成講座も行い、東京・京都・宮城・福岡からも受講されました。京都では発達障害のある子ども達にも効果があると使われています。動物の動きを使った運動会などを開催したいと思っています。



電話：06-6842-7038 メール：info@junglefit.jp

担当者：畑

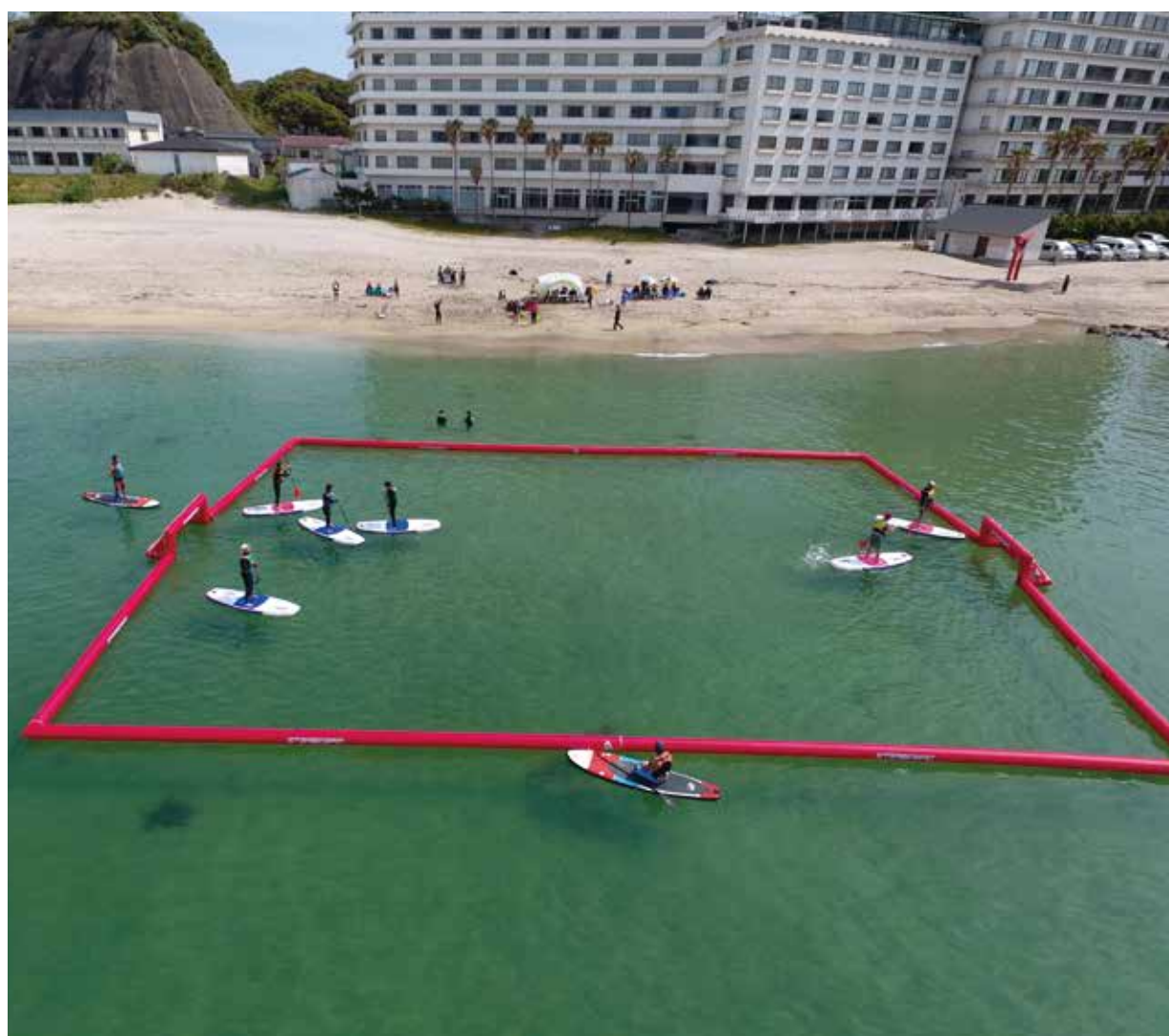
第1回 勝浦SUP polo マリブチャレンジ オープンウォーターシリーズ Starboard Japan 公認試合

誰でもその日から楽しめるSUP polo の全日本選手権大会の予選

**主催：NPO法人 ウォーターフィットネス協会
Wow Action Sports(株)、Malibu point(株)、
Starboard Japan(株)**
<https://www.facebook.com/MalibuChallenge/>
<https://www.npowf.org>

「勝浦SUPマリブチャレンジ」は、TOKYO2020 サーフィン種目の会場となった千葉県の美しい海岸地形を有する勝浦市の海洋観光資源をフィールドとし、スポーツ人口が急増しているスタンドアップパドル(SUP)というスポーツを通じて県内外はもとより海外へも発信しています。合わせてSUPを活用した地域活性と健康増進、子供達の海離れに歯止めをかけることを目的としています。

スタンドアップパドル(Stand Up Paddle)は、頭文字をとってSUPと呼ばれ、サーフィンを楽しむだけでなく、漕ぐことによるコアマッスル(体幹筋)への効果が実感されることから、徐々に広まってきました。2007年、SURFTECH 社が工場生産のSUP 専用ボードの販売を開始し、乗りやすく、扱いやすいボードが誕生し、一気に世界中に広がった。特に距離と時間で競い合うRACE や、波に乗り技を競い合うWave、SUP ボードを利用した水上でのヨガ、フィールド内でチームに分かれ得点を競い合うSUP Polo などの競技がさらに、愛好者を急増させている。ボードメーカーが独自のボードを世に送り出し、多くの愛好者が生まれ、それぞれの楽しみ方が広がってきました。



メール：info@npowf.org
担当者：森 和仁

JAPAN ECO TRACK

アウトドア・アクティビティを通じて 地域の自然や文化を楽しむ旅

主催：ジャパンエコトラック推進協議会

<http://www.japanecotrack.net/>

「ジャパンエコトラック」とは、カヌー・自転車・トレッキングなどのアウトドアスポーツによるエコな移動手段で、日本各地の豊かで多様な自然を体感し、地域の歴史や文化、人々との交流を楽しむ新しい旅のスタイルです。ジャパンエコトラック推進協議会は、自然環境に配慮しながら、日本各地の特色豊かな地域資源を活かした交流人口増加による地域活性を目的とし、旅行者が365日いつでも快適に旅を楽しめる環境づくりを、地域と連携して推進しています。まず、旅行者のために標識や道路の整備、トレッキングルートの整備を進め、ルートの情報や地域の魅力をまとめた「ジャパンエコトラック公式ルートマップ」(日本語、外国語)を作製し、全国110店舗以上のモンベルストアで配布しています。公式ウェブサイトからもダウンロード可能です。登録地域では旅行者の受け入れ態勢の整備を進め、様々なサービスを提供しています。2017年4月現在、ルートのあるエリアは全国8箇所、今後もエリアは全国に拡大予定です。「ジャパンエコトラック」はアウトドアスポーツを「いつでも、快適に」楽しむことができる環境作りを進めることで、アウトドアスポーツを通じた健康づくりを促進しています。また、上述のように、地域一体で旅行者の受け入れ態勢の整備を進めることが、地域振興(まちづくり)につながっています。この取り組みが評価され、2016年にジャパンエコトラックは、環境省「第4回グッドライフアワード」の「実行委員会特別賞」を受賞。今後は、旅行者がより快適にジャパンエコトラックを楽しめる環境作りとして、公式サイトでの宿予約システムの構築や、訪日外国人の増加を目指して、旅行者同士で口コミの共有ができるウェブサイトやSNSを通じた情報発信の仕組みの強化を進めていきます。



電話：06-7670-3186

メール：office@japanecotrack.net

担当者：片岡

おおつち新山高原 ヒルクライム大会

- *再生:東日本大震災以前のような新山つつじ・新山高原の再生
(自然環境の再生・保存、コミュニティの活性化)
- *創生:震災からの復興、創生途上の大槌を知っていただくこと
(交流人口の拡大により大槌創生に寄与すること)
- *共生:三陸エリア広域連携(連携により三陸ツーリズム振興をはかること)

主催：おおつち新山高原ヒルクライム実行委員会
<https://www.mspo.jp/otsuchi.shinyama/>

東日本大震災での直接的な被害は免れた山間部で、三陸初のヒルクライム大会(計測あり)として2016年に開催し、約250名が参加。コミュニティの存続も危惧される状況の中、町外からの協力も得て町の花であるつつじが開花する5月に大会を設定。再生(つつじ、コミュニティ)、創生(大槌町復興から創生へ)、共生(三陸広域連携)という理念を掲げ、地域主体の企画・運営、県内近隣スポーツイベントとの連携、地域資源(自然、ヒト、特産物、文化)をちりばめた持続性のある大会を通じて、復興の歩みを情報発信し、全国からの支援を感謝する機会とすることで方向性を決めました。大槌町職員を中心に、宮古や釜石の方の協力もあり、広域で推進できる体制を整えました。大会前日は多くの参加者が町内に宿泊し、前夜祭では地元の料理や地元の人形劇の復活上演を行って盛り上がりました。当日も沿道には小旗を振って応援する町民の姿もありました。第1回目の成功もあり、関係者からの評価も高まり、第2回目への協力体制が深まりました。さらに、ヒルクライムに挑戦したいという流れもでき、町民のスポーツ振興にも寄与していきたいと考えています。今後は集客を増やし、ベストローカル大会を目指し、再生・創生・共生の理念を少しでも表現し実現できる大会にしていきたいと思っています。



電話：080-3508-5286 メール：isogawa@home.email.ne.jp
担当者：五十川 寛章

ありのままの自然を活用した “アドベンチャーレース”

アウトドアアクティビティを駆使し、チームで協力しながら
自然と対峙する“アドベンチャーレース”を全国で展開

主催：有限会社エクストレモ

<http://www.a-extremo.com>

様々なアウトドアアクティビティを駆使しながらチームで協力してゴールを目指すアドベンチャーレースは、全国10カ所で開催されるまでになり、13年目を迎える大会もあります。①環境・自然保護、②地域の宣伝、③地域経済の発展、④地域住民の協力を目標に、大自然を活かした地域特有のコースを舞台にして多くの人々が地域の自然や人と触れ合い、アウトドアスポーツの裾野を広げる音を目標にしています。地元行政、観光協会、商工会、農協、漁協、キャンプ場、地元アウトドア事業者とも協力し、スポーツを通じた地域活性化へ貢献しています。レース中は地域にまつわるクイズや、地元老人会とのゲートボール対決、漁港での伊勢海老つかみ取り、手作りソバを振舞うなど、地元住民との交流の場を設けています。併せてエクストリームチャレンジin四国の右下では、徳島県の協働の森づくり事業に参画し、参加者からの賛助金(任意)でイベントで排出されるCO2を森林で吸収するという循環を促しています。今後は口コミで地域の良さを発信し、観光地ではなくても日本には素晴らしい里山があり、きれいな川があり、フレンドリーな人々がいる、ということアドベンチャーレースを通じて伝えていきたい。地域の再発見や自分の地域を知ること、そして人と人とのつながること。アウトドアスポーツの素晴らしさをこの地域で発信し浸透していくことが参加者の再訪にもつながり、アドベンチャーレースを通して、次世代につながればと思います。



電話：03-5610-0638 メール：info@a-extremo.com

担当者：我部 乱

ツアー・オブ・奈良・まほろば

サイクルで見つける新たな地域の魅力 「ツアー・オブ・奈良・まほろば」

主催：ツアー・オブ・奈良・まほろば実行委員会

<http://www.tourofnara.com>

奈良県では、平成22年12月に「奈良県自転車利用促進計画」を策定し、自転車利用ネットワークの充実や自転車利用環境の創出等に取り組んできました。県東部の市村、県内の自転車関係団体や自転車愛好家が連携・協力し、サイクルスポーツの盛んな県東部地域にて、自転車を活用した滞在型、周遊型観光の促進と地域活性化、さらには生涯スポーツとしての県民の健康増進を目指して、平成25年に第1回「ツアー・オブ・奈良・まほろば」を開催しました。参加地域も増え、住民の理解も得られるようになり、参加者への食事、飲料提供などの「おもてなし」では、地域の自発的な協力を得られるまでになっています。第1回目よりより多くの参加者に楽しんで頂けるよう様々なプログラムを実施し改善してきたが、現在では、芝生上に設定した起伏のあるコースを周回して順位を競う「グラスサイクルレース」、あえてルートを設定せず、チームで地図を見ながらチェックポイントを巡ってゴールを目指す、「チームハッピーライド」を導入しています。また、大会のグローバル化を推進するための足がかりとして、外国人留学生を招待し、参加中の映像などを海外PR用に作成しました。今後も地域住民と関係団体、行政の3者で協力・連携し、おもてなしの心で奈良県南部東部に来られる皆さまをお迎えします。いずれは「ツアー・オブ・奈良・まほろば」に参加するために全国各地、ひいては世界から多くの方が奈良へお越しになる大会へと成長していきたいと考えています。



電話：0742-27-9863 メール：info@tourofnara.com

担当者：奈良県くらし創造部 スポーツ振興課 中岡 宏太

近畿走輪杯 ～ランニングバイク大会～

「こどもの意思」を尊重し、「こどもの力」を信じて、
子の成長と共に親も成長できる場の創造と提供をする。

主催：近畿走輪～有志ランバイク活動団体～
<http://ameblo.jp/kinkisourin/>

「近畿走輪」は、幼児限定のバランスバイクを用いた、2歳から参加できる世界最年少のレース競技を開催しています。2015年5月に結成し、これまで、奈良、兵庫、大阪(2回)、京都(4回)で大会を開催。1つの大会には、2歳～6歳の選手が総勢200名～300名の参加で近畿圏、東海・九州・四国地方、関東圏から多数のライダーが参加。家族やオーディエンスも多数来場され、1大会で700名以上の規模の大会。また、競技車両を持ち込むが為に、ほとんどが自家用車での移動となり、飲食店、宿泊施設、観光名所などの利用も見込め地域全体の活性化に繋がっております。和泉市の観光名所、特産物などを紹介した他、和泉市の観光大使任命式も執り行い、地域のアピールも実施しました。

ランニングバイクは、両足でバランスを取りながら「歩く」・「走る」動作と連動して推進力を得る乗り物であるため、幼少期に大切なバランス感覚が自然と身に付きます。ランニングバイクをキッズスポーツの文化とすべく、活動を活性化させていきたいと考えています。近畿圏から全国へ、そして世界へ羽ばたく子供たちをできるだけ多く輩出し、ランニングバイクを卒業しても、日本中、世界中でできた仲間と共に、グローバルに活躍する子供たちを育てることを目指します。



世界最年少のレースに出よう！

2歳から誰でも参加できるランバイク(ペダルのない幼児用自転車)のレースがあるのをご存じでしょうか？一人でランバイクを操作できれば、誰でも参加可能です。近畿走輪のレースでは、『ひとりでも多くの子供たちに勝つ喜びや楽しさ』を感じてもらうため、誰もが表彰されるチャンスがある。熱練度に応じた決勝戦を展開するなどして、初心者にも参加しやすいレースとなっています！今、全国で毎週のように行われているランバイクレース。あなたのお子さんも出てみませんか？

開催レース情報は、Facebookやアメーバブログで「近畿走輪」を検索！

興味を持ちました、QRコードから今すぐチェック！

お問合せ先 kinki.sourin2015@gmail.com
090-6138-5696 (代表 甲田) までお気軽にどうぞ。

近畿走輪について
こどものすくすくを引出すキッカケの提供。楽しさや勝つことの喜び、負けることの悔しさを親子で体感していただくことを目的とした、ランニングバイクレースの経験豊富な保護者有志のボランティア団体です。

電話：090-9881-3380 メール：tomom119@icloud.com
担当者：石橋 智也